

京都市生活支え合い型ヘルプサービス従事者養成研修 標準カリキュラム（詳細）

	科 目	項 目	内 容	時 間	到達目標・指導の視点	講師要件
I	高齢者を取り巻く環境と介護・福祉サービスの理解	1 介護保険制度のしくみ	(1) 介護保険制度の成立の背景 (2) 介護保険制度のしくみ (3) サービス利用の流れ (4) 利用できる保険給付サービス	1.5	【到達目標】 - 介護保険制度及び総合事業の理念、体系、利用の流れ、サービス内容等を理解し、必要に応じて利用者に説明ができる。 - 介護・福祉サービスに携わる多職種の業務内容、役割、連携の取り方について理解する。 【指導の視点】 - 京都市発行の「高齢者のためのサービスガイドブックすこやか進行中！！」を活用し、制度の全体像を体系的にイメージできるようにする。 - 総合事業を担う一員として、介護予防の理念の理解を徹底させる。 - 基本チェックリストを活用し総合事業の対象者を理解させる。	次のいずれかに該当する者 ・社会福祉士 ・介護福祉士 ・介護支援専門員 ・介護職員実務者研修・介護職員基礎研修・訪問介護員養成研修1級課程修了者 ・高齢者の相談業務に従事する者
		2 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）	(1) 介護予防・日常生活支援総合事業のしくみ (2) サービス利用の流れ（サービス事業） (3) 利用できる総合事業サービス（サービス事業の類型）			
		3 介護・福祉にかかわる職種の理解と連携	(1) 資格職 (2) 事業所・関係機関に配置される職種			
II	高齢者と健康	1 老化の理解	(1) 老化に伴うこころとからだの変化 (2) 高齢者の特性に応じた対応 (3) 高齢者に多い病気	1.5	【到達目標】 - 老化に伴う身体的・心理的な変化と日常生活上の影響を理解する。また、支援にあたっての留意点を理解する。 - 認知症の症状による生活のしづらさを理解し、認知症の人に対する関わり方の基本を理解する。 【指導の視点】 - 高齢者に多い心身の変化及び疾病の症状について、具体例をもとに対応の留意点を説明する。 - 認知症の初期症状について具体例をもとに説明する。 - 認知症の方の心理・行動を理解できるよう具体例をもとに説明する。	次のいずれかに該当する者 ・医師 ・保健師、看護師、准看護師 ・介護福祉士 ・介護職員実務者研修・介護職員基礎研修・訪問介護員養成研修1級課程修了者 ・高齢者の相談業務に従事する者
		2 認知症の理解	(1) 認知症高齢者の状況 (2) 認知症の原因と症状 (3) 認知症の人への対応			

	科 目	項 目	内 容	時 間	到達目標・指導の視点	講師要件
Ⅲ	生活支え 合い型ヘル プサー ビス従事 者の心得	1 生活支え 合い型ヘル プサー ビス について	(1) 生活支え合い型ヘル プサービスの概要と 従事者 (2) 生活支え合い型ヘル プサービスの目的 (3) 生活支え合い型ヘル プサービス従事者の 役割 (4) 生活支え合い型ヘル プサービスの業務特 性 (5) 生活支え合い型ヘル プサービスの業務内 容 (6) 生活支え合い型ヘル プサービスの業務の 進め方	3	【到達目標】 ・生活支え合い型ヘルプサービスの目 的及び提供可能なサービス内容を 理解する。 ・傾聴と受容の重要性を理解し、利用 者の状況に応じたコミュニケーション 技法を活用できる。 ・接遇の必要性を理解し、実践できる。 ・現場で起こりうる事故について理解 し、その予防的な視点を持って業務 に従事できる。 ・人間としての尊厳の保持と自立した 生活を支えることの重要性を理解 する。 【指導の視点】 ・厚生労働省「訪問介護におけるサー ビス行為ごとの区分等について（老 計第10号）」をもとに、従事者と してできること、できないことを理 解させる。 ・ロールプレイを通じて、傾聴と受容 の重要性を理解させる。 ・業務中の事故の具体例を挙げて、そ の予防方法を考えさせる。 ・利用者の体調急変などの具体例を挙 げ、従事者としてとるべき対応を考 えさせる。 ・従事者自身の健康管理のあり方につ いて理解させる。 ・利用者の尊厳を傷つける具体的な言 動を挙げ、その理由を考えさせる。 ・利用者の持っている能力を活かすこ とで、自立支援及び重度化の防止に つながることを理解させる。	次のいずれかに該 当する者 ・介護福祉士 ・介護職員実務者 研修・介護職員基 礎研修・訪問介護 員養成研修1級課 程修了者 ・訪問介護サー ビス事業所等で1年 以上訪問介護員等 として従事した経 験のある者
		2 共感的理 解とコミュ ニケーショ ン	(1) 受容と傾聴 (2) コミュニケーション の方法 (3) チームコミュニケーション			
		3 生活支え 合い型ヘル プサー ビス従事 者としての接 遇の基本	(1) あいさつ (2) 言葉づかい (3) 身だしなみ			
		4 リスク管 理と緊急対応	(1) 生活支え合い型ヘル プサービスにおける 事故と予防 (2) 事故予防の実際 (3) 事故発生時の対応 (4) その他、判断に迷う 場合の対応 (5) 生活支え合い型ヘル プサービス従事者の 健康管理			
		5 生活支え 合い型ヘル プサー ビス従事者の職 業倫理	(1) 人権の尊重 (2) 高齢者の自立支援と 介護予防 (3) プライバシーの保護 (4) 不適切な事例			
Ⅳ	生活援助 について	1 生活援助 の意義	(1) 生活援助（家事援 助）の必要性と目的 (2) 生活援助の基本原則	2	【到達目標】 ・生活援助を通じて、利用者の力を引 き出し、生活の質を高める視点を理 解する。 ・利用者の生活状況に合った適切な支 援方法を理解する。 【指導の視点】 ・標準テキストに掲載のチェックシー トを活用し、生活援助の基礎的な方 法と手順の理解を図る。 ・留意点等を実際の事例を用いて説明 する。	次のいずれかに該 当する者 ・介護福祉士 ・介護職員実務者 研修・介護職員基 礎研修・訪問介護 員養成研修1級課 程修了者 ・訪問介護サー ビス事業所等で1年 以上訪問介護 員等として従事 した経験のある 者
		2 主な生活 援助の実際	(1) 掃除 (2) 買物 (3) 調理 (4) 洗濯			